

第9回 総持院様



高野山でも、もっとも弘法大師にゆかりある本中院谷にある総持院様。通りに面して檜皮葺き山門の右が大師堂、その隣が位牌堂

宮田永明住職

平安時代のはじめ弘法大師空海により開創され、平成 16 (2004) 年には「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコ世界文化遺産に登録された高野山。一山すべてが道場というこの真言密教の聖地においても、総本山金剛峯寺の隣に控え、ひときわの伝統と格式を誇る別格本山総持院様では、このほど新日鐵住金の建材用チタンによる位牌堂と大師堂の屋根改修工事をご落慶となりました。

高野山初のチタン屋根となったこの2つの建物は、チタンならではの耐候性や苔や庭木を枯らさない安全性を評価いただいたのみならず、荘厳な聖地にも違和感なくとけ込む意匠性への期待を受けてのものでした。弊社でも関係各位とともに新たな表面仕上げの開発を加速し、檜皮からの葺き替えの決定版となりうる製品を実現することとなりました。今回は高野山におけるチタン適用というご英断をいただいた宮田永明住職に、施工を担当した株式会社カナメ岡山営業所・坂本宗壱所長とともにお話をうかがいました。

世界文化遺産の高野山で 開創の中心地・本中院谷にチタン屋根

——総持院様は高野山の中でもたいへん由緒あるお寺様だと存じております。

宮田住職 開基は久安年間（1145-1151）といえますから、平安時代の末期です。金剛峯寺のすぐ隣にありますが、当院から4軒を本中院谷と申しまして、お大師様が高野山をお開きになった中心になります。伽藍を建立され道場を造られ、お大師様やお弟子様がその周辺にお住まいになった。そういう場所ですから、往古の雰囲気も自ずと守られています。高野山でも、お寺しかなくて民家が混在しないというのはこの一画だけです。

——平成 27 年に高野山は開創 1200 年を迎えますが、とくにこのあたりは歴史の重みを感じますね。

元々、うちのお堂はすべて檜皮葺きでした。本中院

谷の並びは檜皮葺きが連なり、それは美しかったですね。できれば檜皮に越したことはありませんが、この区域は高い木々に囲まれていて日照が悪く、檜皮も腐りやすいのです。

今回チタンで葺いた位牌堂と大師堂は、とくに日陰になる場所で、葺き替える前は、屋根に直径が数センチにもなる木が生えていました。檜皮は有機質ですから朽ちると肥料になってしまいます。雨に濡れて、陽が当たらないと腐っていく。腐ったらカビが生える。カビが生えるとまた腐る。分解されていい肥料になったところに、上から木の種が落ちてくるわけですから、林ができてもおかしくありません。鬼板なんかは腐って融けてなくなっていました。

このまま檜皮で葺いたところで、30 年に一度は同じことの繰り返しです。檜皮の材料自体によいものなくなっていますから、そのサイクルは今後ますます短くなります。

確か40年ほど前、京都の清水寺の舞台（本堂）の大屋根の葺き替えをしたときに、150年前の葺き替えの棟板が出てきました。あのような大きな屋根だと、檜皮も長尺物を使うのですが、長くてよい檜皮となると、立木の表面を甘皮だけ残してめくって、15年か20年くらいかけて新しい皮ができるのを待つわけです。そうすれば、脂がしっかり乗ったよい檜皮が得られ長もちもしますが、もうそんなことはまずできません。樹脂を注入して耐用年数を上げる試験も行われていますが、それでも火災には絶対的に弱いですね。

——高野山には火事で苦しんで来られた歴史もありますね。

宮田住職 日本の伝統建築は木造ですから、そのリスクはどこも同じですが、高野山も全山焼け野原になったことが何度かあります。金剛峯寺の根本大塔や金堂、山内の文化財を収蔵する霊宝館をコンクリートにしたねらいも、まずは耐火でした。檜皮の場合は、遠いところの火事であっても、火の粉が飛んで来て引火すれば、もうおしまいです。布団が燃えたのと同じで、上からいくら水をかけても追いつきません。

——火元が近隣でなくても危ないのですね。

宮田住職 金剛峯寺の檜皮の大屋根には、天水桶が置かれています。火の粉が飛んで来そうな場合、屋根に上ってあれで水をまくのです。今はホースも使いますが、それでも火の粉が落ちる前に水をまかないとだめですね。もしも檜皮がくすぶれば、そのまわりごとガサッと取り除かないと、中にどんどん火が入ります。ですから、チタンなど金属の屋根材を使うということは、当然、火災から守るという意味があります。

私の子どものころはトタンにコールタールを塗った屋根もありまして、何年かに1度、コールタールを塗り直していました。それが銅板なら、緑青が吹いて保護皮膜ができるから、メンテナンスをしなくていいということで、銅板になっていったのですが、その銅板も酸性雨の影響が心配になってきました。ちょうどそこにチタンという材料が出てきて、高価ではあるもののずっと変化しないという。高野山が世界遺産に登録され、ますます次代に受け継ぐ責任を感じる中で、造形がそのまま保てるチタンに大きな魅力を感じました。

必然の時期にチタンで葺き替え

——チタン屋根材については、いつごろお知りになったのでしょうか。

宮田住職 5年ほど前に、出張先でチタンで葺かれたお寺の屋根を見て、きれいな色だな、この色だった

ら瓦に似ていていいじゃないかと思いました。ただ予算のこともありましたので、すぐには注文できなかったのですが、話だけは聞いてみようと思っていました。そしたら、ちょうど営業の方から「高野山に行くので、ご挨拶にうかがいます」という連絡がありました。

来てもらって、話を聞いて、これだけの平米数で、ここここをやりたいという話をしたら、「これだけの予算を用意をしてくだされば、チタンは押さえられます。工事の日取りはそれからでも結構です」とおっしゃるのでお願いしました。

その1年ほど後に東日本大震災が起こって、うちの位牌堂も雨漏りが心配になってきましたので、いよいよ葺き替えに入りました。見れば野地板なんかは腐りかけていて、ギリギリのところでした。もう少しでも遅かったら化粧木材もたぶんダメになっていたでしょう。

坂本 そうですね、化粧木材も濡れた跡がありました。雨水の浸入があると腐食も早いです。工事範囲を小さくとどめるためにも、今回はよい機会だったと思います。

宮田住職 そのままだったら建物本体も全部やり直さなくてはなりません。本当にいいタイミングだったのですが、物事というのはそういうものだなと思いました。人間は、考えて考えて、計画を練る。するとあるとき時期というものが到来します。考えますと私の仕事も、本尊様をお願いして、お大師様にお祈りして、祈ればそれですべてが大丈夫かという、決してそうではありませんが、どうも巡り合わせというものがあります。ここまでピッタリのタイミングで葺き替えられたのは、本尊様とお大師様のお蔭だと思いました。

チタンは苔を荒らさない

——やはりご縁があったということですね。建物を守るという面で、チタンは腐食による雨漏りをなくすという以外に、屋根が軽量化でき耐震性に寄与するという点でも、震災以来、引き合いや問い合わせが急増しました。

宮田住職 うちも檜皮などの自然素材が使えなくなったことのほかに、構造上の問題がありました。仮に位牌堂に瓦を載せるとなると、屋根が重たくなりますから、下の構造部分の負担も大きくなります。一方、上が軽かったら構造の負担は軽減されます。もっとも、ここは寒いから瓦は使えません。継ぎ合わせの部分に溜まった水が凍って瓦が割れてしまうのです。ですから銅板もしくは他の金属ということで、ガルバリウム鋼板という選択肢もありましたが、上に塗ったものが腐ら



傑作とお褒めいただいた鬼も含め、端正に葺き上がった位牌堂。いぶし瓦風で渋みを増した CD05 の単体使用は、この屋根が初めて

ないというより、そのものが腐らない方がいいに決まっていますから、チタンは望むところでした。

できれば樋も付けたくないというのがありました。うちにも樋はありますが、本当は全部取り払いたいくらいです。樋を付けると建物は必ず傷みますし、樋自体のメンテナンスも必要になります。樋を付けないとなると、銅板は緑青を含んだ水が庭に落ちて苔や植木を枯らしますが、チタンなら樋がなくても安心です。

私の子どものころは町営水道がなくて、溜め水や山の湧き水を使っていました。また若いころ、10年ほど小豆島の山寺にいたことがありまして、屋根に落ちた雨水を溜めて、濾して沸かして使っていました。そういう経験がありますから、水というものには敏感になります。銅の樋から出てきた水は銅イオンが入っているので、下のコンクリートの雨落ちの部分も1カ月くらいでグリーンになります。小豆島の寺は瓦屋根だったからよかったのですが、銅板の屋根だったら、まず飲むとは思わなかったですね。

——チタンは人工骨や歯根にも使われるくらいで、体内に入れても大丈夫です。環境負荷を抑えるという点では、チタンに勝る建材はありません。

1200年の伝統にも違和感のない意匠性

坂本 建物の意匠を考えると樋はない方がいいですね。本来軒先を見せるための建物なのに、そこをわざわざ隠すことになりますから。

宮田住職 位牌堂も道路の側は樋を付けていません。

樋がないから、外から見ても美しい。先日、建仁寺に行きましたが、京都の寺は瓦葺きがほとんどですから、樋があまりありません。やはり樋がないのはいいですね。全体的に見ても、うちの屋根はたいへんきれいに葺いてもらいました。眺めていても思わず顔がほころびます。

坂本 新日鐵住金が加工性にすぐれたチタンを開発していますし、とくにうちの職人はチタン屋根でかなりの経験を積んでいます。總持院様でもきれいな線が出るよう本当に頑張ってくれました。

宮田住職 位牌堂の鬼も見事なものです。立体的でよくできていて、あの技術力は素晴らしい。「よくでき過ぎていて瓦に見える。腹が立つくらいだ」と棟梁が言うから面白かった。箕甲から連なるラインも滑らかですね。ここは屋根の美しさの見せ所ですよ。いちば



樋の使用を抑えた位牌堂の表通り側



よく知る人すら檜皮からの葺き替えに気がつかなかったという大師堂。この屋根に合わせて開発を急いだ新しい黒色表面仕上げと、IP ゴールドチタン2種を組み合わせた宝珠が絶妙にマッチ

ん上の箱棟にしても、普通はああいう大きなものだと、板をあらかじめ箱状に加工して設置することが多いのですが、部材ごとにきっちりと垂木に縫い付けてやっています。よく気を遣って葺いたというのがわかりますから、非常に満足しています。

——職人さんの技術力があっての話ですが、チタンでも、今は銅板と同じくらいの施工ができるという好例ですね。今でも頭からチタンではああいうカーブは出ない、銅板みたいに施工できないと言って、話も聞いてくださらない施主様もいらっしゃいますが、ご住職はチャレンジ精神が旺盛で、新しい技術やものづくりの現場をたいへんよくご存じでした。



位牌堂の施工風景

宮田住職 先代が建築が好きで、私も小僧のころからあちらこちらの現場に行って、ああでもない、こうでもない、邪魔ばかりしていました。

——まず位牌堂から始まりましたが、いぶし瓦風で人気の高いAD03という表面仕上げをご覧いただいたところ、それよりも落ち着いたものの方がいいということで、CD05を提案させていただきました。CD05を単体で使ったのは總持院様が初めてですね。

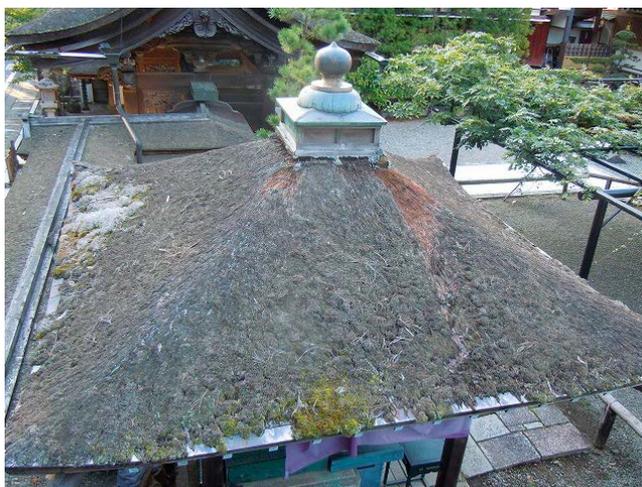
宮田住職 まったくいい感じになりました。最初にチタンの話を聞いたときは、まだ薄い色だったように記憶していますが、改めて見本をもらったときには、あれがいちばん黒い色でした。

位牌堂の色もよかったのですが、大師堂に関しては、金色の宝珠とのマッチングを考えて、さらに黒くて落ち着いた表面仕上げをリクエストしました。

——それまではいぶし瓦風の表面仕上げが1つのベースにあったのですが、私も実際に高野山にお邪魔しまして、山内の厳かな雰囲気に触れますと、やはり1200年の歴史の重みにふさわしい意匠が必要であると感じました。ちょうどメーカーでもさらなる市場開拓のため、そういった表面仕上げを研究中で、カナメさんとも前向きにやりましょうという話になりました。

坂本 ご住職のご要望がなければ、この色がこんなに早く世に出なかったでしょうね。

宮田住職 境内の雰囲気とそのままとけ込んでいて、昔からあるみたいな感じがします。言わないと誰も新



屋根を葺き替える前の大師堂

しく葺いたことに気がつかないから、新しくしたと言うのですが、それでもみなさん宝珠だけが新しくなったと思っています。前の宝珠は銅の鋳物に金箔を貼ったものですから、劣化が目立っていました。改修前の宝珠の露盤（台座）が木だったのも屋根が檜皮葺きだったからで、それもみんな知っているはずなのに、全部がチタンに変わったことに誰もまったく気づかない。

——宝珠の金色も最新のIP（イオンプレATING）技術によるものです。

宮田住職 IPも何種類か見せてもらって、露盤と宝珠の素材に少し変化をもたせたところ、本当にいいものに仕上がりました。これもまったく違和感がない。

——ご住職がいちばんいいとおっしゃるもので宝珠と露盤を組み合わせたら、非常に美しく収まりました。

文化財へのチタンの適用

——九度山の慈尊院様でも、多宝塔の屋根の葺き替えに緑青色のチタンをお使いいただきました。和歌山県の指定文化財ですが、チタンが使ってよかったとおっしゃっています。ただ本堂の屋根が檜皮で、こちらはチタンにしたいくても国の重要文化財に指定されていますから、檜皮でしか葺き替えができない。カラスやコウモリが来て屋根に穴を開けるものですから、緑のネットを張ったりと、いろいろ苦労されていますね。

宮田住職 元はこの材料で造ったのなら、ずっとそれで補修し続けなさいと、言う人は非常に簡単そうに言うのです。高野山の奥の院には松平家の石廟があり、越前の天然記念物の石でできています。修理するときどの石を使うのかという話になりましたが、結局、その天然記念物の石が使われました。では何のための天然記念物なのか。文句をつけるつもりはありませんが、現状を維持するのは口で言うほどたやすくあり

ません。

うちの関係寺院にも重要文化財になっているところがあります。その茅葺き屋根を葺き替えるには痩せた細い茅が必要で、今ある茅ではすぐに腐ってしまいます。20年か30年か前に葺き替えたときは、北海道の自衛隊の演習地で、痩せきった茅を刈らせてもらって何とかりましたが、これからのことを思うとたいへんです。

そうして維持していく費用は、国宝だったら75パーセント、重要文化財だったら40～50パーセントの補助が出ますが、あとはすべて持ち主の負担です。この前も、大阪で200年ほど前の重要文化財の民家が壊されました。残念なことですが、持ち主が維持できなければ、こうなるケースもあるのですね。

——チタンにしても、新しい素材ですし、実績がないということで、建築時のままの素材にこだわる文化庁や専門家の理解が得られず、所有者は困られています。文化財にしても年々数が増えています。すると補助金、つまり税金による負担も増えるはずなのですが。**宮田住職** うちが宿坊もやっていますが、不特定多数が泊まる宿泊施設となると、法律でいちばん厳しい安全性を求められますから、その建物は鉄筋ですし、お寺らしからぬ屋内消火栓も装備して、今求められるものにきちんと対応しています。そういう面もありますのでね。

お大師様の進取の気性とチタン屋根

——いろいろある中、高野山の由緒あるお寺様でチタン屋根を採用いただいたということは、社会的にも非常に意味合いが大きいと思っています。

宮田住職 お大師様にしても、非常に進取の気性に富んだお方でした。ですから、その時代のいちばんよいものを使うというのは、お大師様の教えにもかかっています。お大師様は、世の中になくことをしてこられた。たとえば私立の学校を創ったのはお大師様が最初です。綜芸種智院ですね。しかもそこでは仏教だけでなく、儒教や道教、方位学、暦学、算術など、その時代に求められる学問を教えられました。いわゆるユニバーシティですね。藤原冬嗣の屋敷を借りて、スポンサーになってもらって、身分に関係なく無償で学ぶことができました。今にも劣らない学校をその当時に開かれています。日本人で最初^{てんれいばんしやうめいぎ}に辞書を作ったのもお大師様です。篆隸万象名義という漢字の辞書です。

お寺の建物にしても、旧態依然のイメージを頑なに守り通していくことがすべてであるとは思えません。う

ちにはエレベーターもありますが、以前ならどのお寺も階段です。だけどそれでは車椅子の人はどうするのか。車椅子の人は高野山まで車で来る。それならば駐車場を地下に作ってそのままエレベーターで上がればいい。そういうことを考えますと、屋根材も今いちばん望みうるところでいちばんいい材料がいいわけです。

——そういつただけだと、私どもとしましては冥利につきます。位牌堂、大師堂の次もご予約いただいていますね。

宮田住職 まず山門をチタンで葺き替える予定ですが、できるものなら全部チタンにしたいくらいです。たとえばうちの寺も永代供養をお預かりしますから、次の代、その次の代へと継承しなくてはなりません。位牌堂はまさにそういう建物ですが、建物をもたせるには屋根がいちばん大切です。

先ほど構造の話をしました。高野山の場合、冬は気温がマイナス18度くらいまで下がりますので、土の下から霜が立って基礎が揺らいでしまいます。ところがうちの位牌堂は、建て替えてから40年くらい経ちますが、地面を1メートル半ほど掘り下げて、栗石を入れて、鉄筋を打ち込んで、コンクリートを流してと、基礎工事をしっかりやって、その上に頑とした大きな柱を立てています。そしてなおかつチタンで屋根を軽くしましたから、どう転んでも私と次の代は大丈夫です。

檜皮葺きの場合、屋根の下地がありません。棧の上に檜皮を置いて、棧に檜皮を打ち付ける。ですから大師堂も、チタンで葺くにあたって、新たに下地をこしらえました。その結果、以前よりしっかりした屋根になりました。

——高野山でも本中院谷にある總持院様にチタンを採用いただいたことで、山内のお寺様にもチタンへの

関心が広がればと期待しています。

宮田住職 関心は高いと思います。施工中もずいぶん見に来られました。私にしても、実際にチタンで施工された屋根を見て、これはいい、自分の寺もチタンで葺きたいと思いましたから、国の文化財はまだまだハードルが高いにしても、施主の立場からするとチタンに変わってくると思いますね。見に来た人はまず「高かっただろう」と言いますが、葺き替えなくていいのだから、2回、3回葺くことを思えば安いものです。ただ、チタンももう少し手軽になればいいのですが。——施工性もよくなりましたし、意匠にしても、宝珠に使えるゴールドから、檜皮から葺き替えても違和感のない黒化処理まで広がってきました。ですからあとは量産ですね。マーケットがもう少し大きくなって量をたくさん作れるようになると、単価も下がってマーケットが広がる。そういういい循環にもっていけるようメーカーでも今、真剣に取り組んでいます。

このたびの總持院様の葺き替えには、いろいろな会社の最新技術が投入されていますが、本日はありがたいお話を頂戴し、関係者一同、今後の改良、開発の参考にさせていただくとともに、これからチタン屋根を検討なさる施主様にもたいへん参考になるかと存じます。お忙しい中、まことにありがとうございました。

■物件データ

高野山別格本山總持院

位牌堂・大師堂屋根改修工事

- ・竣工 位牌堂 2012年12月
 大師堂 2013年5月
- ・施主 總持院 <http://www.soujiin.or.jp/>
- ・施工 株式会社カナメ岡山営業所
<http://www.caname.net/>



藤棚の向こう左が位牌堂、中央が大師堂、右が山門（2階宿坊から）